



進路だより

大阪府立羽曳野支援学校
進路支援部
令和3年6月発行

新年度が始まって2ヶ月が経ちました。新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、さまざまな面でこれまでとは異なる対応を求められる中ではありますが、中学3年生のみなさんにとって、この一年は自分の将来に向けて進路を決めていくとても大切な一年になります。

Q. 「あなたは、将来、どのような職業につきたいと考えていますか？」

この質問への答えはどうでしょうか。この時期だからこそ、自分自身のことについて時間をかけて考えてみましょう。ただ、一人で考えていると不安や難しさを感じるがあると思います。そんなときは、下に書かれたことを参考にしてみることも一つの方法です。



情報を集める！

- 学校からの資料をよく確認する。
- 下の検索サイトや高校、専門学校のHPを見る。
 - ・府立高校検索サイト『咲くなび』 (<http://www.schoolnavi.osaka-c.ed.jp/>)
 - ・大阪私立中学校高等学校連合会 (<http://osaka-shigaku.gr.jp/>)
 - ・通信制高校ナビ (<http://www.tsuushinsei-navi.com/>)
- オープンスクールや学校見学会を活用して自分で確認する。
- 奨学金制度について確認する。



多くの人と話をする。そして最後は自分が決める！

- 学校の先生たちに相談する。
- 保護者や友だち、お医者さんや看護師さんと話をする。



日々の課題にコツコツ取り組む！

- 勉強やスポーツ技能の向上、社会性などの人間性を高める。

まずは“考える”。そして“一歩踏み出す”。自分自身の将来のために！先生たちはみなさんのことを応援していますよ！頑張りましょうね。

「病気は自分を変えるチャンス」

古藤宏規さん(21歳)は羽曳野支援学校で学習した先輩です。中学生のころにネフローゼ症候群を発症し入退院を繰り返しました。高校生活も入退院を繰り返しながらのものではありませんでしたが“春の高校バレー”ではベストリベロに選出されました。そして、大学進学後の今も病気と向き合いながら学業・部活に励んでいます。今回は当時を振り返りいくつかの質問に答えてもらいました。

Q1. 進路に対する不安は？

A. ありました。学力、身体、病気(再発)のこととかいっぱい！

Q2. 不安な時の対処法は？

A. 僕は先生や友だち、家族と話をし言葉に出しました。それと、病気になった他の人たちを見て自分も頑張ろうと思ってました。

Q3. 進学先を決めるとき何を考えて高校を選びましたか？

A. 自分の身体や病気のことを理解して受け入れてくれるかどうか。

Q4. 高校生活はどうでしたか？

A. 毎日が充実した最高の時間でした。きっとそれは、自分の居場所がそこにあるということを感じられたからだと思います。

Q5. 現在(21歳)の自分から当時の自分へ一言メッセージを！

A. よく諦めんと頑張ってるな！でも、薬はしっかり飲めよ(笑)。

～在校生のみなさんへ～

僕は病気になったことでいろいろな人と出会い、様々な経験をし、多くの感謝を感じました。病気をしてない人よりも経験豊かに過ごせたと思っています。何より病気は自分を変えるチャンスだと実感しました。たくさん担任の先生と話をしてみてください。僕もそうでした。今も先生のことめっちゃ好きです。21歳になった今「病気があるから〇〇ができない」とは思わなくなりました。本当の意味で病気をプラスのことだと思えるようになったんだと思います。悩むことも大切。でも必ずその先に出口はあるのであきらめない！僕も…頑張ってますよ！

